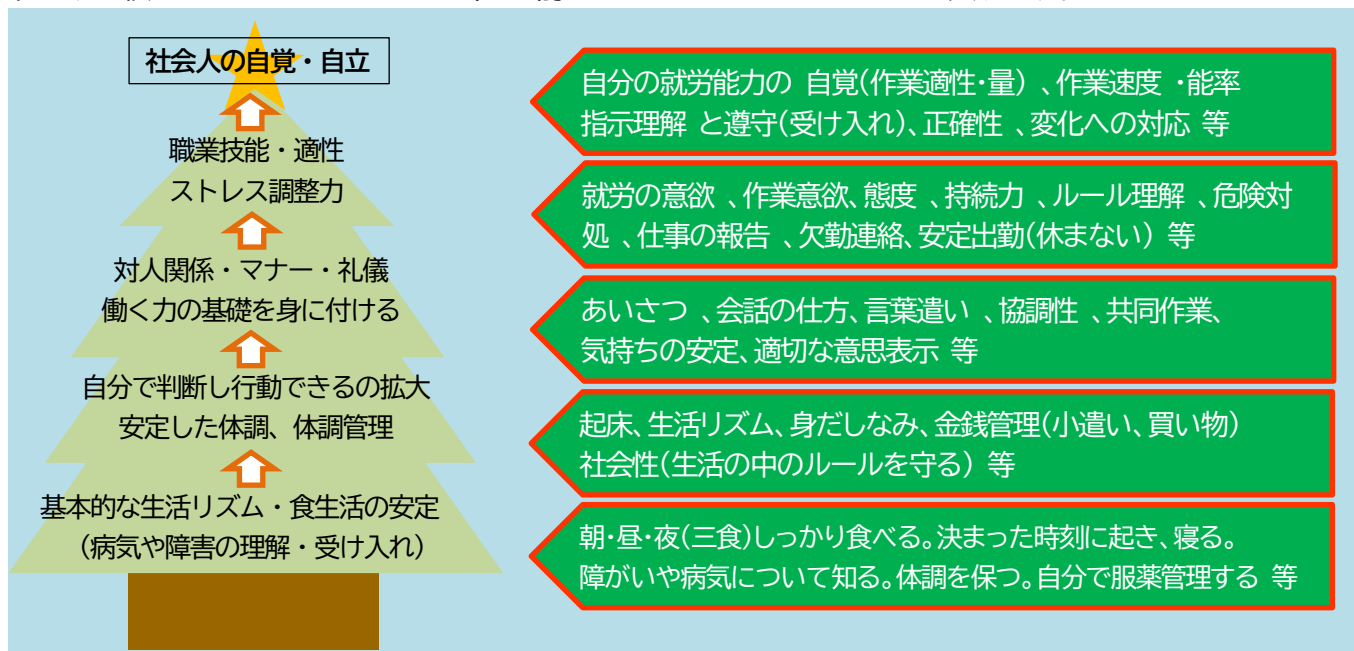


家庭生活はキャリア教育の基盤！～一年を振り返りましょう～

キャリア教育とは、子ども達が社会の一員として自立して生きるために必要な能力や態度を育てる教育のことですが、仕事だけでなく、自分の望む生き方を実現するために必要な能力や態度も学ぶことなのです。

小学部、中学部に通っている子ども達も、何年か後には高等部を卒業し、社会に出て自分の役割や責任を担っていくことになります。高等部では作業学習の時間が増え、現場実習等も設定されますが、それだけで急に就職できるようにはなりません。普段の生活習慣や社会生活力が少しずつ育っていること、そして、自分で考え決め、決めたことの結果を受け入れる力進路選択の幅が広がることになります。少しずつ積み重ねた力により、自分のなりたいものになれる、選べる範囲が広がることにつながるのです。

下は、働くために必要なことについて示したものです（就労準備性）。全てが矢印の順番で育つわけではなく、少しずつ積み重なっていくことで“当たり前ができる！”ようになることが大切です。



★ 今年は、子どもが自分でやることは増やしましたか？

小学部に入学してから今まで、ずっと同じ生活を繰り返していませんか？

入学から何年経っても、登校時にランドセルやリュックをお母さんが背負わせてあげる、雨の日には傘をさしかけてあげる、本人は周りを見ずに、全く気にしないで歩いて行く、小学部高学年になっても、中学部になっても手を繋いで登下校する…といった光景も目にします。

今までどおり！変えない！のは“楽”で“安心”ですが、年齢に応じた接し方でしょうか？

今までどおり…の殻を破る（ステップアップ）のは、学校だけでなく家庭でも大切なことです。今までと変える（チャレンジする）ことで、少しの間、大変になりますが、必ず成長につながります。



★ 去年より生活リズムと食生活は整いましたか？

朝、自分で起きて、ご飯を食べて、トイレに行って、歯磨きを済ませて、身だしなみを整え、遅れずに学校にいられているでしょうか？車の中でご飯を食べたり、着替えたりしていないでしょうか。生活リズムや食生活は、成長と共に自然に身に付くものではありません。日々、家庭で繰り返しながら身体に染み込ませていくものです。給食の時だけ食事の好き嫌いを減らし食事のマナーを身に付けたとしても、家庭で定着しなければ、卒業後、元の食生活に戻ってしまいます。

イベントやごちそうが多い年末年始。クリスマスのケーキやチキン、年越しそば、おせち料理等、食事のマナーを含め、少しだけステップアップする良い機会です♪



★ 基本的なルールやマナー、丁寧な言葉遣いは？

「時間を守る」「あいさつをする」「お礼を言う」「謝る」「返事をする」など、社会的・職業的自立に向けて必要な力（常識）を身に付けることはとても重要です。敬語も少しずつ教えていきましょう。親が敬語を使って、お店の店員や親戚等と挨拶したり話したりしている場面を見せることも大切です。



挨拶されるのが当たり前の感覚の子ども達もいます。挨拶されても返せない子もいます。

現場実習に行き、自分から挨拶する生徒は元気な印象を与え、挨拶できない生徒は「機嫌が悪い？体調が悪い？」と心配されたりもします。挨拶だけで印象はプラスにもマイナスにもなります。自分から笑顔で挨拶できると最高です！ここに素直さがプラスされるだけで社長のお気に入りの社員になれたりもします！

★ 手伝い、役割は増えましたか？

手伝いは、「自分は役立つ存在である」ことの自覚につながります。手伝いは、親が一方的に決めるのではなく、本人と相談の上、簡単にできること、本人がやりたいこと、ちょっとしたことからお願いしてみましょう。「さすが！」「助かる～！」「うれし～い！」



「ありがとう！」と手伝ってくれたことをほめ認めながら、徐々に大事な役割につなげていくと良いかもしれません。手伝い以外には、小さいときは親がやってあげていたこと（着替え、身体や頭を洗う、包装紙を外す等）を、次第に子ども自身でやらせていくというやり方もあります。

★ 自己選択、自己決定、自己責任を育てましょう。

何か聞かれたり選択を迫られたりしたとき、よく考えずに「分かりません！」とか「わかりません。教えてください！」と、即座に答える子ども達があります。分からないとき、困ったときには自分から話すよう教えられ定着したのですが、「チョコとアイスどっちが好き？」といった問いにも「分かりません。教えてください！」と答えたりすることがあります…。よく考えずにパターン化した答えをしているようです。一方、家族でレストランに行ったとき、子どもが自分で注文した食事よりも母親の食事が食べたくなり、親の皿から好きな食べ物をとったり交換したりするようすも見られます。幼児期ならまだしも、中学部・高等部になってもそのままの生徒もいます。以前、校外学習に行った際に、教師の皿に箸を伸ばしてきたり、自分の嫌いな物を入れようとしたりすることもありました。注意されても本人は？？？（なぜ注意されるのか分からなかった）でした。



★ お年玉だけでなく、普段の小遣いが大切。

小遣いの範囲で買い物させる経験の積み重ねも大切です。本校では、小遣い制ではなく「欲しいと訴えた物を買ってあげている」家庭が多いように感じます。働く（稼ぐ）意識を高めるためには、小遣いの範囲で買い物する経験（お金を意識する、金額的に我慢する）は不可欠。

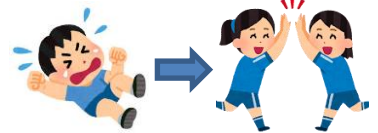


いつでも何でも買えるのではないこと、欲しいもののために我慢して小遣いを貯める！ことを覚えるためには、日常的なことの積み重ねていくしかありません。

★ 失敗を乗り越えようとする心の強さを育てましょう。

幼児のときから変わらずに、なんでも先回りして準備したり、与えてしまったり、が続いていませんか？少しでも困りそうな場面があると、本人が困る前に周りの大人がすぐに手を出して助けてしまい、結局、本人は何もしていない・・・ということはないでしょうか。

子どもが試行錯誤し自分なりの答えを出すまで「待つ」ことも、とても大切です。上手くいかなないことがあると、すぐに周りの大人に頼るのではなく、自分で考える、行動する、失敗を修正する、根気強く取り組むといった力は、日々のちょっとしたことの積み重ねで育っていきます。本人が楽しみながら、少しずつ粘り強さが出てきたようになってきた！というのが最高ですね♪



★ 普段から、働くことの喜び、楽しさ、厳しさを伝えましょう。

「どんなときに働きがいを感じるか」「この仕事を続けるために頑張ってきたことは何か」等、親の仕事について話してみましょう。そして、折に触れ「あなたも高等部を卒業したら働くのよ」「私たちは年をとるから、あなたに働いてもらわないと大変よ！」等と、冗談交じりにでも、高等部を卒業したら働くことが当たり前と意識する場面を日頃からつくっていくようにしましょう。



もうすぐ冬休み。みなさま、本年もお世話になりました。良いお年を～♪

